

2026年3月期
第3四半期 決算説明会資料

2026年2月6日



株式会社新日本科学
SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD.



1. 総括と今後の見通し	P. 3
2. 2026年3月期 第3四半期決算概要	P. 8
3. 事業トピックス	
①CRO事業（非臨床）	P. 20
②CRO事業（臨床）	P. 30
③TR事業／SGG事業	P. 32
4. Q&A	

1. 2026年3月期 第3四半期総括と今後の見通し



代表取締役会長兼社長 CEO
永田 良一

1. 2026年3月期 Q3累積実績

- 非臨床CRO事業のQ3受注高は100億円と四半期ベースで過去最高、Q3累計で前Q3比13.7%増と順調。
- Q3累計業績は、Satsuma社のQ3経費計上（5.6億円）と
非臨床CRO事業で複数の大型試験の売上計上がQ4以降にずれたことにより計画を下回る。
- 経鼻片頭痛薬「Atzumi™」のパートナリング交渉は継続中。

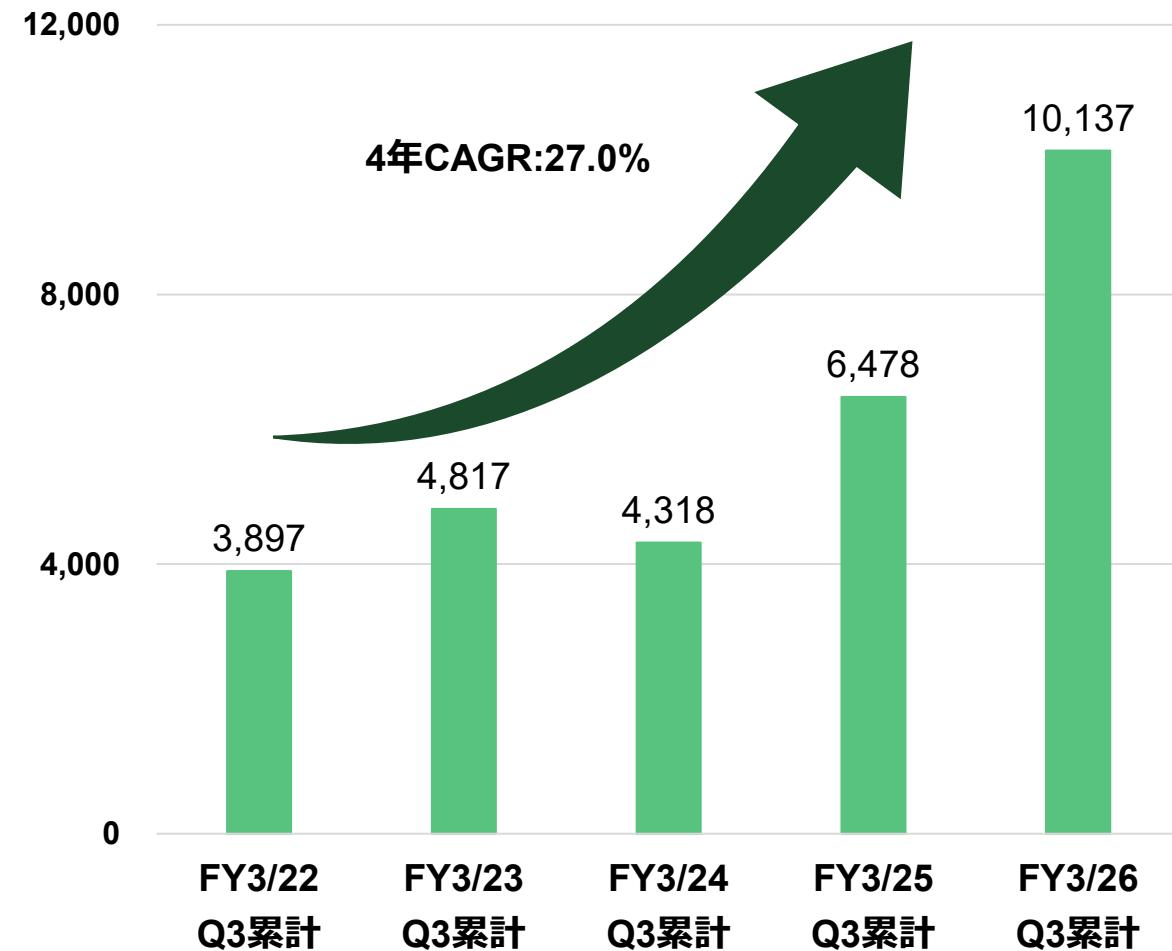
2. 2026年3月期 通期見通しと今後の方針

- 通期業績予想の修正の発表。主因はSatsuma社の下期経費計上（12.4億円）と、
非臨床CRO事業売上計上の期ずれが予想されること。
- 非臨床CRO事業の欧米受注が強く推移しており、世界最高基準のNHP実験施設「EU実験棟」を新設。
- 非臨床CRO事業は国内、海外ともに新たなプリファード契約を大手製薬企業と締結。
Q4も新たな契約に向けた活動を継続。

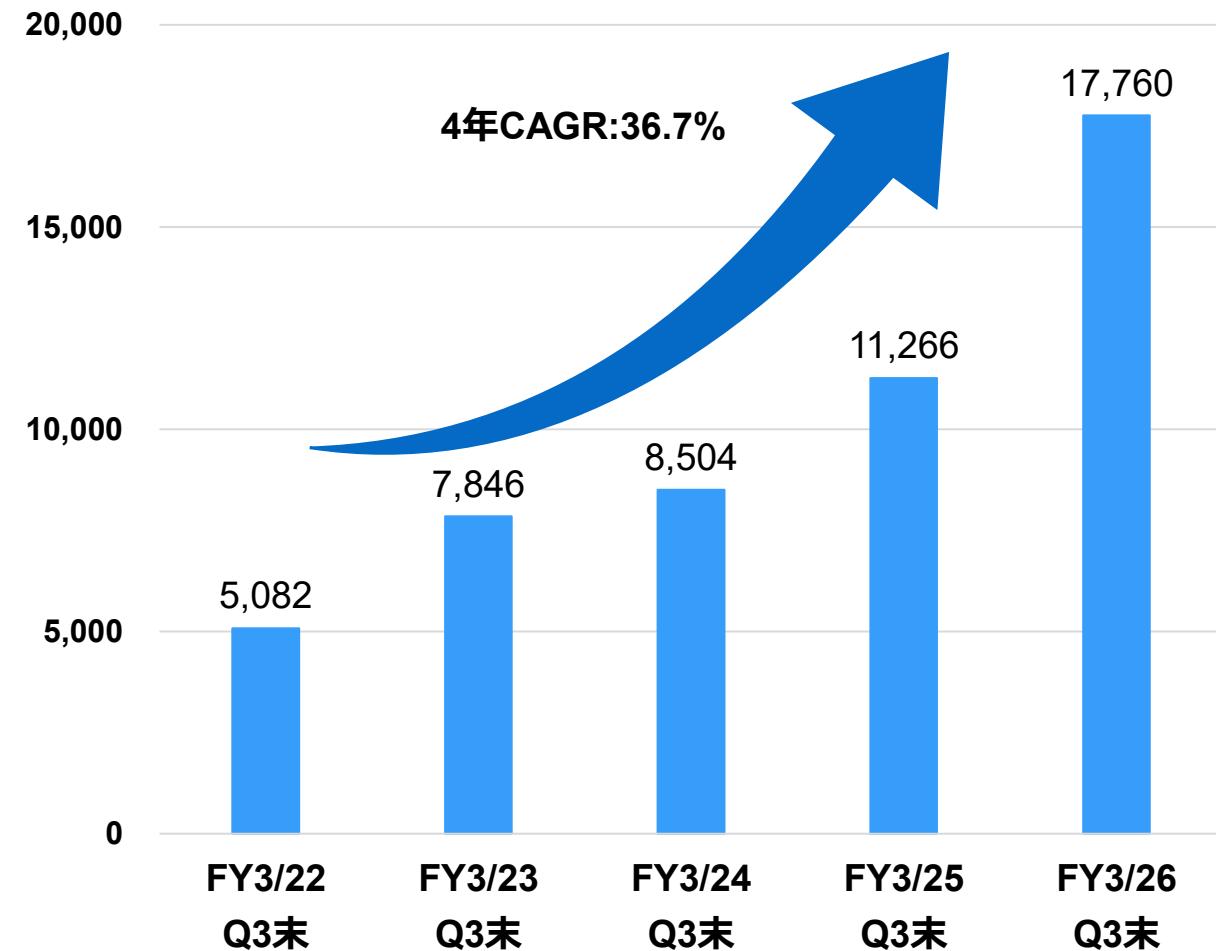
3. 創薬エコシステム構築への取組み

- 26年1月にJPMカンファレンスで日米投資家とバイオテック企業をつなぐレセプションを開催。

(単位：百万円) 欧米顧客からのQ3累計受注高の推移



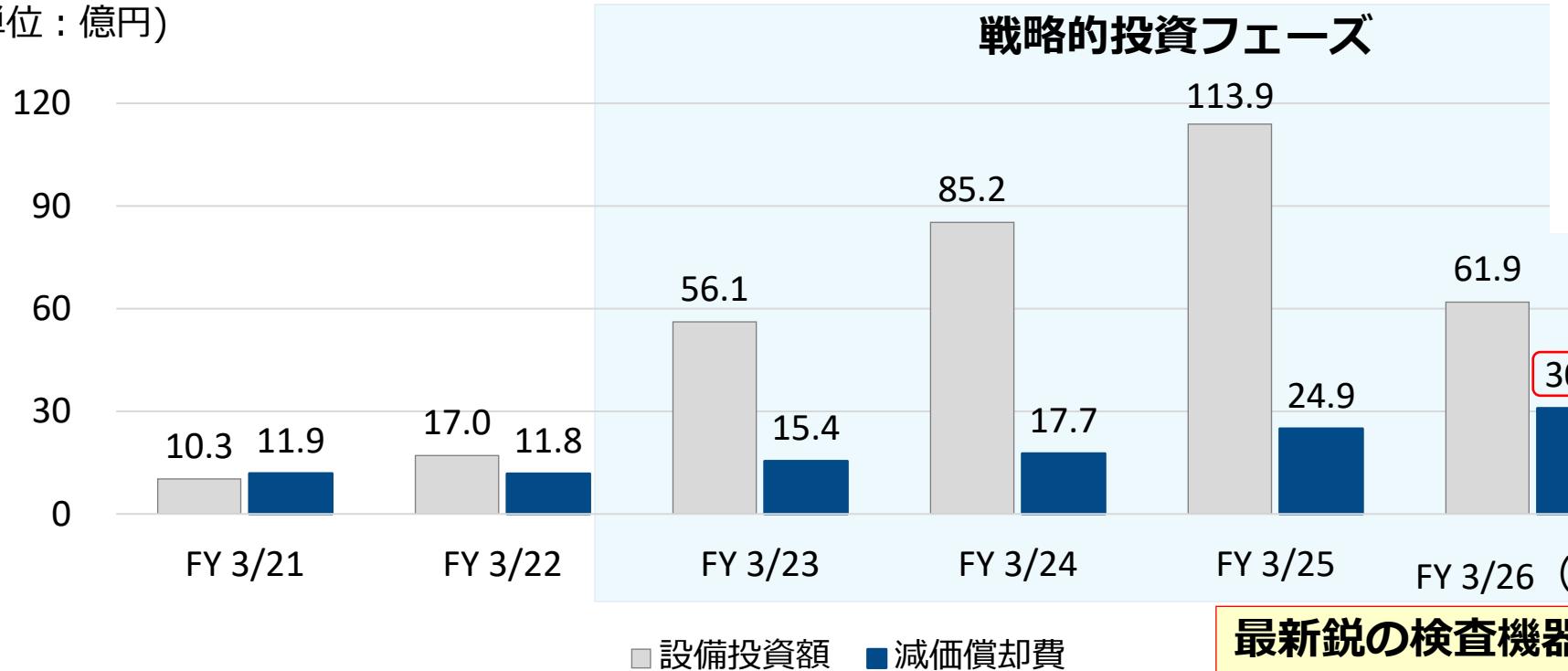
(単位：百万円) 欧米顧客のQ3末（12月末）受注残高の推移



非臨床事業の欧米受注増に対応する世界最先端「EU実験棟」の新設

【設備投資と減価償却費の推移】

(単位：億円)



完成イメージ

最新鋭の検査機器を多数装備した新社屋研究棟の稼働開始による一時的な増加

JPMカンファレンス2026でレセプションを開催



日米のバイオテックやスタートアップ企業、製薬会社、ベンチャーキャピタル、
SGGの投資先や投資候補先など、創薬エコシステムにかかる総勢約200名が参加



2. 2026年3月期 第3四半期決算について



専務取締役 CFO
入山 隆

Q3累計業績は、前年を下回り進捗。主な要因は以下の通り

- ①CRO事業営業利益の減少 (-10.6億円)
 - 非臨床試験の大型化に伴うQ4以降への売上の期ずれ
 - 実験機器・設備への投資による減価償却費の増加
- ②Satsumaの営業損失の増加 (-0.7億円)
 - パートナリング交渉継続によりQ3経費5.6億円を計上

(単位：億円)	2025年3月期 Q3累計 実績	2026年3月期		前期比
		Q3累計 実績		
売上高	222.3	211.9	-10.4	-4.7%
営業利益	18.9	10.2	-8.7	-46.1%
経常利益	41.3	31.1	-10.2	-24.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	32.0	22.7	-9.4	-29.2%

2026年3月期 Q3 収益構造

(単位：百万円)	FY2023	FY2024	FY2025	対前期
	Q3累計	Q3累計	Q3累計	増加額
売上高	17,984	22,235	21,195	-1,040
売上原価	8,447	10,552	10,287	-265
労務費	5,223	5,943	6,105	162
減価償却費	1,115	1,597	2,070	473
売上総利益	9,537	11,683	10,908	-775
売上総利益率	53.0%	52.5%	51.5%	-1.0%
販売管理費	7,001	9,789	9,880	91
人件費	2,256	2,917	3,229	312
Satsuma除く	2,256	2,323	2,752	429
Satsuma	0	594	477	-117
研究開発費	1,302	1,829	1,874	45
Satsuma除く	1,302	670	437	-233
Satsuma	0	1,159	1,437	278
飼育管理費	909	1,564	1,650	86
販売管理費率	38.9%	44.0%	46.6%	2.6%
営業利益	2,535	1,893	1,027	-866
営業利益率	14.1%	8.5%	4.8%	-3.7%
営業外損益	2,348	2,244	2,091	-153
持分法利益	2,148	2,628	1,972	-656
内、新日本科学PPD	2,011	2,445	1,893	-552
為替差損益	279	-380	17	397
経常利益	4,884	4,138	3,119	-1,019
経常利益率	27.2%	18.6%	14.7%	-3.9%

- 非臨床試験の大型化に伴うQ4以降への売上の期ずれ（売上減少）
- 実験機器・設備への投資強化による減価償却費の増加
- NHP未実現利益の計算方法の変更に伴う粗利調整

- その他経鼻基盤技術開発関連取組みの優先度の調整

- 事業化準備費用（製剤製造・諸費用）
- Q3費用計上継続

- 為替円高（昨年Q3対比）
- 前中間期受注減少に伴う新規試験開始からの売上低調
- 主要顧客からの受注形態変更の影響

2026年3月期 Q3 事業セグメント別の業績推移



(単位:百万円)

	FY2023 Q3累計	FY2024 Q3累計	FY2025 Q3累計	対前期 伸び率	
CRO事業	売上高 17,483	21,678	20,257	-6.6%	□ 非臨床試験の大型化に伴うQ4以降への売上の期ずれ (売上減少)
	営業利益 4,342	5,146	4,089	-20.5%	□ 実験機器・設備への投資強化による減価償却費の増加
	営業利益率 24.8%	23.7%	20.2%	--	□ NHP未実現利益の計算方法の変更に伴う粗利調整
	持分法利益 2,148	2,628	1,972	-25.0%	□ 飼育管理費の増加
	(うち新日本科学PPD) 2,011	2,445	1,893	-22.6%	
	事業利益 6,490	7,774	6,061	-22.0%	
TR事業	売上高 9	49	75	53.1%	□ 事業化準備費用(製剤製造・諸費用)
	営業利益 -1,627	-2,757	-2,859	--	□ Q3費用計上継続
	(うちSatsuma) -812	-1,878	-1,943	--	
	(うちSatsuma以外) -815	-879	-916	--	□ その他経鼻基盤技術開発関連取組みの優先度の調整
メディポリス事業	売上高 492	389	598	53.7%	
	営業利益 -100	-275	-17	--	
米国不動産事業	売上高 --	0	137	--	□ 発電・ホテル事業の伸張
	営業利益 --	-34	-90	--	
その他事業・調整額	売上高 0	119	128	--	
	営業利益 -80	-187	-96	--	
合計	売上高 17,984	22,235	21,195	-4.7%	
	営業利益 2,535	1,893	1,027	--	
	営業利益率 14.1%	8.5%	4.8%	--	

※事業利益は営業利益+持分利益

非臨床事業の受注高と受注残高の推移



【新日本科学の非臨床事業の四半期別受注動向】

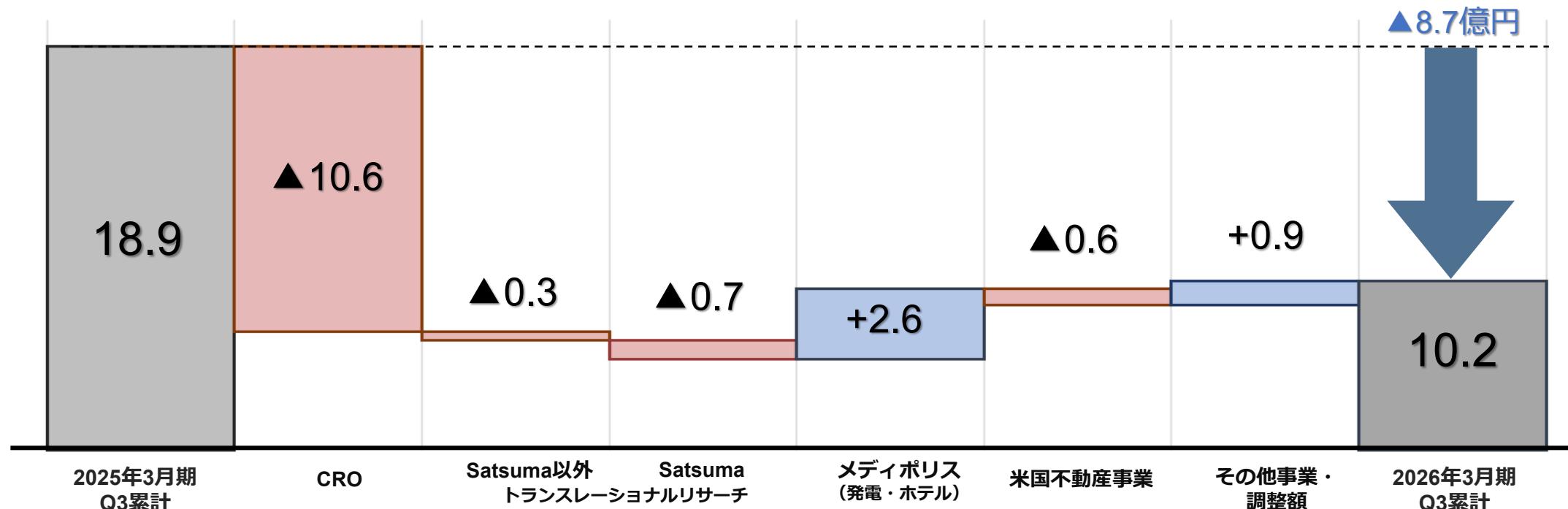
(単位：百万円)

	FY 3/24					FY 3/25					FY 3/26			
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	通期(予)
受注高	8,398	4,217	8,044	6,752	27,411	7,170	8,141	7,364	9,434	32,109	8,095	7,691	10,000	35,200
国内受注高	6,208	3,471	5,051	5,628	20,358	4,001	5,755	4,243	5,769	19,769	4,955	4,372	4,716	20,637
海外受注高	2,189	745	2,993	1,124	7,051	3,170	2,385	3,120	3,665	12,340	3,140	3,319	5,284	14,562
欧米	1,661	827	1,830	755	5,073	1,659	1,994	2,825	3,303	9,781	3,060	2,862	4,215	11,020
アジア	527	-81	1,162	368	1,976	1,510	391	295	362	2,559	80	457	1,069	3,542
海外受注高比率	26.1%	17.7%	37.2%	16.6%	25.7%	44.2%	29.3%	42.4%	38.8%	38.4%	38.8%	43.2%	52.8%	41.4%
キャンセル	-475	-1,559	-834	-1,110	-3,978	-2,217	-1,043	-733	-714	-4,707	-773	-375	-77	--
新規受注額	8,873	5,776	8,878	7,862	31,389	9,388	9,184	8,097	10,148	36,816	8,868	8,066	10,077	--
受注残高	33,329	32,210	33,863	33,212	33,212	36,053	35,877	35,568	34,394	34,394	36,120	36,486	41,559	--

- (注) 1. 受注済案件の中止（キャンセル）が発生した場合は、その時点でマイナス計上
 2. 海外受注高は円換算レートを各期の期中平均レートで算定
 3. 海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定

2026年3月期 Q3 連結営業利益 前期比較

(単位：億円)	CRO事業	トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	米国不動産事業	その他事業・ 調整額	営業利益 合計
		Satsuma以外	Satsuma				
2026年3月期Q3累計	40.8	-9.1	-19.4	-0.1	-0.9	-0.9	10.2
2025年3月期Q3累計	51.4	-8.8	-18.7	-2.7	-0.3	-1.8	18.9
前期比増減額	-10.6	-0.3	-0.7	+2.6	-0.6	+0.9	-8.7



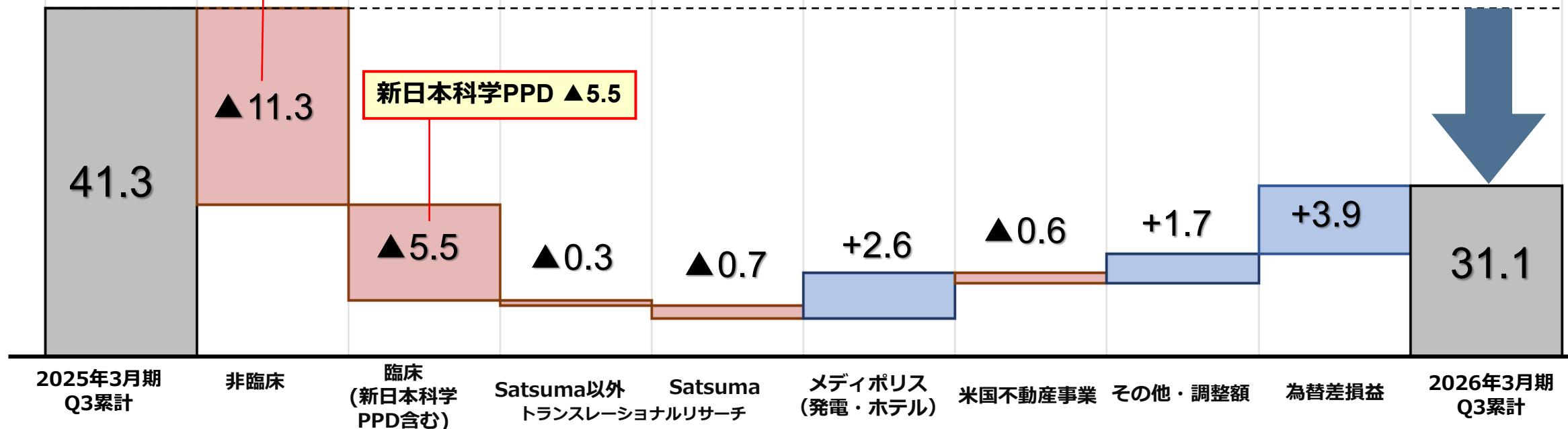
2026年3月期 Q3 連結経常利益 前期比較

(単位：億円)

	CRO事業		トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	米国不動産事業	その他事業・ 調整額	為替差損益	経常利益 合計
	非臨床事業	臨床事業 (新日本科学PPD含む)	Satsuma以外	Satsuma					
2026年3月期Q3累計	41.8	18.5	-9.1	-19.4	-0.1	-0.9	-0.1	0.1	31.1
2025年3月期Q3累計	53.1	24.0	-8.8	-18.7	-2.7	-0.3	-1.5	-3.8	41.3
前期比増減額	-11.3	-5.5	-0.3	-0.7	+2.6	-0.6	+1.7	+3.9	-10.2

非臨床事業の営業利益 ▲10.6
中国持分法適用会社 ▲0.7

▲10.2億円



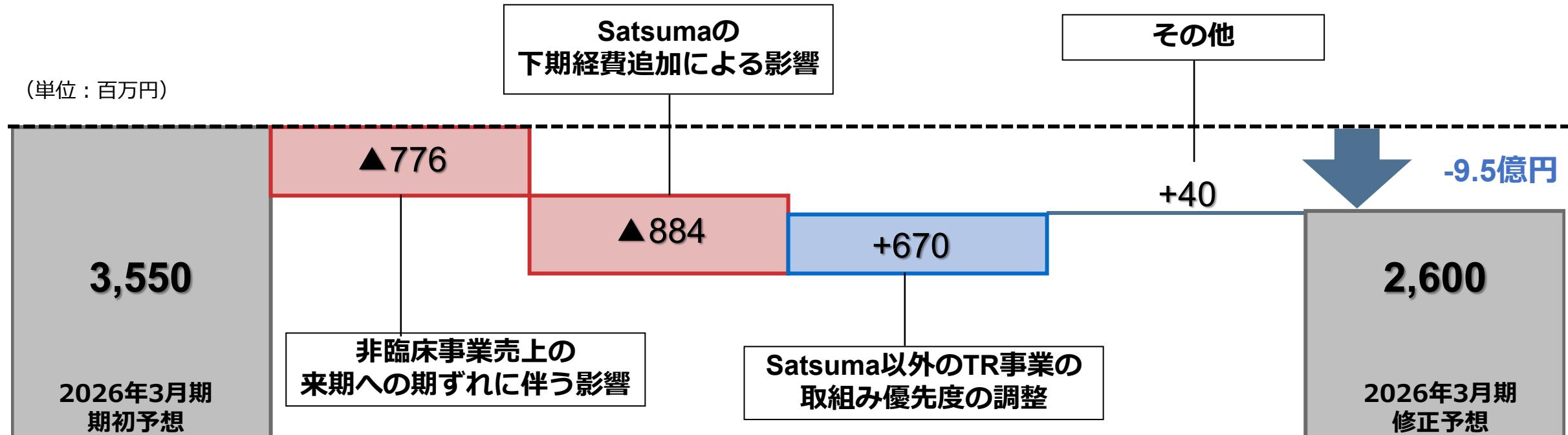
売上高・営業利益・経常利益は、期初業績予想から下方修正。主な要因は以下の通り

- CRO事業営業利益の減少 (-7.7億円)
 - 非臨床試験の大型化に伴う来期への売上の期ずれ
- Satsumaの営業損失の増加 (-8.8億円)
 - パートナリング交渉継続により2H経費12.4億円を計上

一方、Satsuma以外のTR事業での6.7億円の経費コントロールにより、営業利益の下方修正を-9.5億円に圧縮する

(単位：億円)	2025年3月期	2026年3月期				(修正予想の為替レート：155円/\$)
		期初予想 (2025/5/8)	修正予想 (2026/2/6)	期初予想 差異	前期比	
売上高	324.1	332.7	306.9	-25.8	-17.2	-5.3%
営業利益	29.8	35.5	26.0	-9.5	-3.8	-12.8%
経常利益	64.5	59.2	53.5	-5.7	-11.0	-17.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	49.2	35.5	35.6	+0.1	-13.6	-27.6%

- 非臨床事業の受注は堅調も、非臨床試験の大型化に伴う来期への売上の期ずれにより、今期CRO事業の営業利益は期初予想から776百万円減益
- Satsumaの上期営業損失は期初予想から+357百万円改善したが、下期経費1,241百万円の計上により、通期では期初予想から884百万円減益
- 一方、Satsuma以外のTR事業での経費コントロールにより期初予想から+670百万円改善



2026年3月期 収益構造の予想

(単位：百万円)	FY2023 通期	FY2024 通期	FY2025 通期（予）	FY2025 通期（修正予）	修正予 対前期 増加額
売上高	26,450	32,414	33,272	30,698	-1,716
売上原価	12,168	15,453	15,103	14,071	-1,382
労務費	7,275	8,199	8,711	8,529	330
減価償却費	1,575	2,106	3,878	2,721	615
売上総利益	14,282	16,961	18,169	16,627	-334
売上総利益率	54.0%	52.3%	54.6%	54.2%	1.8%
販売管理費	10,120	13,976	14,619	14,026	50
人件費	3,259	4,281	3,881	4,332	51
Satsuma除く	2,975	3,532	3,525	3,679	147
Satsuma	284	749	356	653	-96
研究開発費	1,741	2,218	2,525	2,770	552
Satsuma除く	789	809	1,150	843	34
Satsuma	952	1,409	1,375	1,927	518
飼育管理費	1,333	2,360	2,635	2,215	-145
販売管理費率	38.3%	43.1%	43.9%	45.7%	2.6%
営業利益	4,162	2,985	3,550	2,600	-385
営業利益率	15.7%	9.2%	10.7%	8.5%	-0.7%
営業外損益	2,854	3,466	2,377	2,753	-713
持分法利益	2,751	3,513	2,392	2,599	-915
内、新日本科学PPD	2,632	3,272	2,281	2,472	-800
為替差損益	60	-162	0	18	180
経常利益	7,016	6,451	5,927	5,353	-1,098
経常利益率	26.5%	19.9%	17.8%	17.4%	-2.5%

- 非臨床試験の大型化に伴う来期への売上の期ずれ（売上減少）
- 実験機器・設備への投資強化による減価償却費の増加
- 未実現利益の計算方法の変更に伴う粗利計上の適正化
- 発電事業の伸張

- 事業化準備費用（製剤製造・諸費用）
- 2H費用計上継続

- 前中間期受注減少に伴う新規試験開始からの売上低調
- 主要顧客からの受注形態変更の影響

2026年3月期 事業セグメント別の業績予想



(単位：百万円)	FY2023	FY2024	FY2025	FY2025	修正予 対前期 伸び率
	通期	通期	通期 (予)	通期 (修正予)	
CRO事業	売上高	25,884	31,595	32,098	29,571
	営業利益	7,023	7,258	8,069	7,293
	営業利益率	27.1%	23.0%	25.1%	24.7%
	持分法利益	2,751	3,513	2,416	2,641
	(うち新日本科学PPD)	2,631	3,272	2,281	2,472
	事業利益	9,774	10,770	10,485	9,934
TR事業	売上高	39	54	160	150
	営業利益	-2,470	-3,681	-3,790	-4,004
	(うちSatsuma)	-1,344	-2,284	-1,743	-2,627
	(うちSatsuma以外)	-1,126	-1,397	-2,047	-1,377
メディポリス事業	売上高	569	565	764	788
	営業利益	-254	-422	-48	-102
米国不動産事業	売上高	--	46	240	192
	営業利益	--	-61	0	-109
その他事業・調整額	売上高	-42	154	10	-3
	営業利益	-137	-109	-681	-479
合計	売上高	26,450	32,414	33,272	30,698
	営業利益	4,162	2,985	3,550	2,600
	営業利益率	15.7%	9.2%	10.7%	8.5%

※事業利益は営業利益+持分利益

□ 非臨床試験の大型化に伴う来期への売上の期ずれ (売上減少)

□ 実験機器・設備への投資強化による減価償却費の増加

□ 未実現利益の計算方法の変更に伴う粗利計上の適正化

□ 飼育管理費の減少

□ 想定より円安で推移

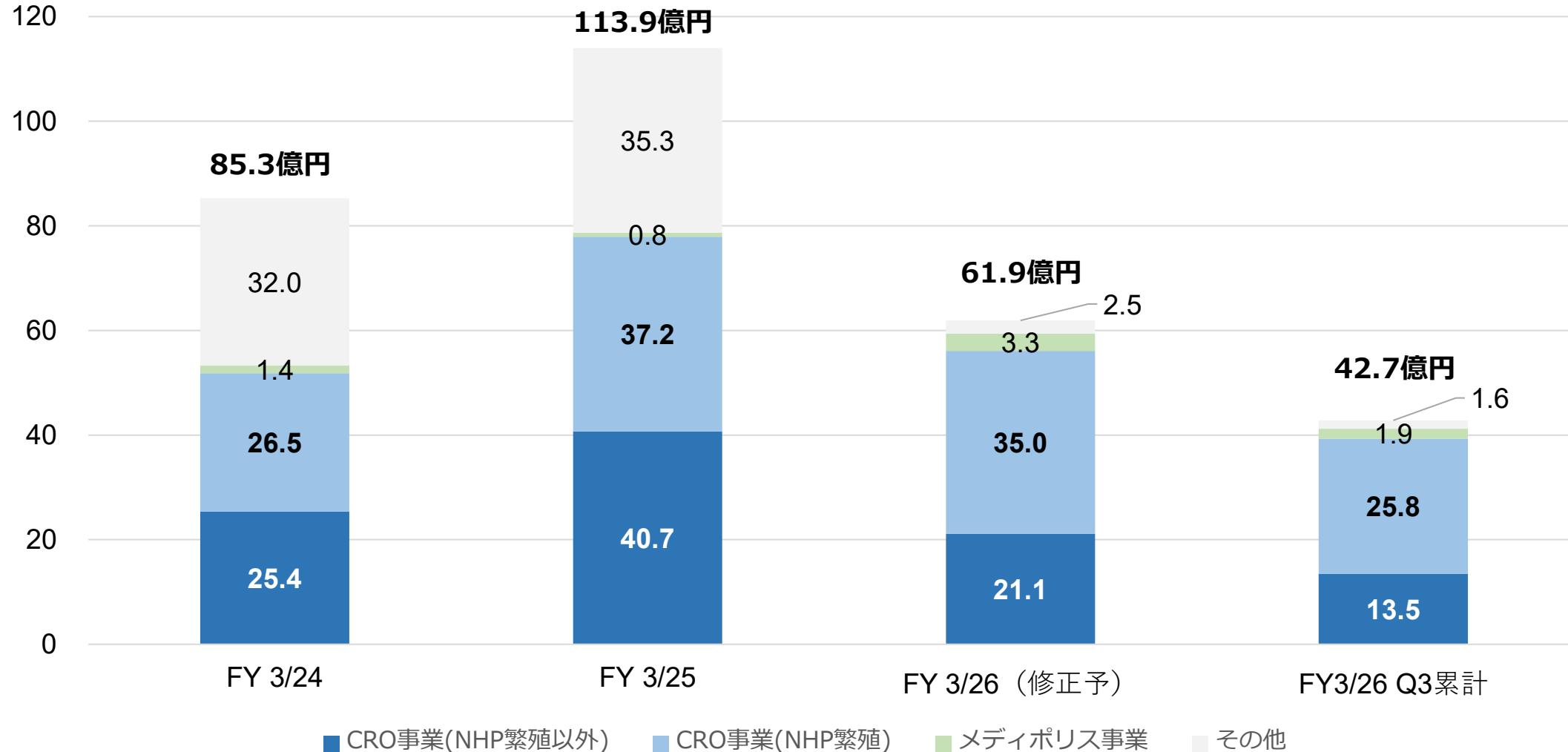
□ 事業化準備費用 (製剤製造・諸費用)
□ 2H費用計上継続

□ その他経鼻基盤技術開発関連取組みの優先度の調整

□ 発電事業の修繕前倒し

非臨床事業の海外受注増に対応する体制整備に向けた投資を継続

(単位: 億円)



3. 事業トピックス

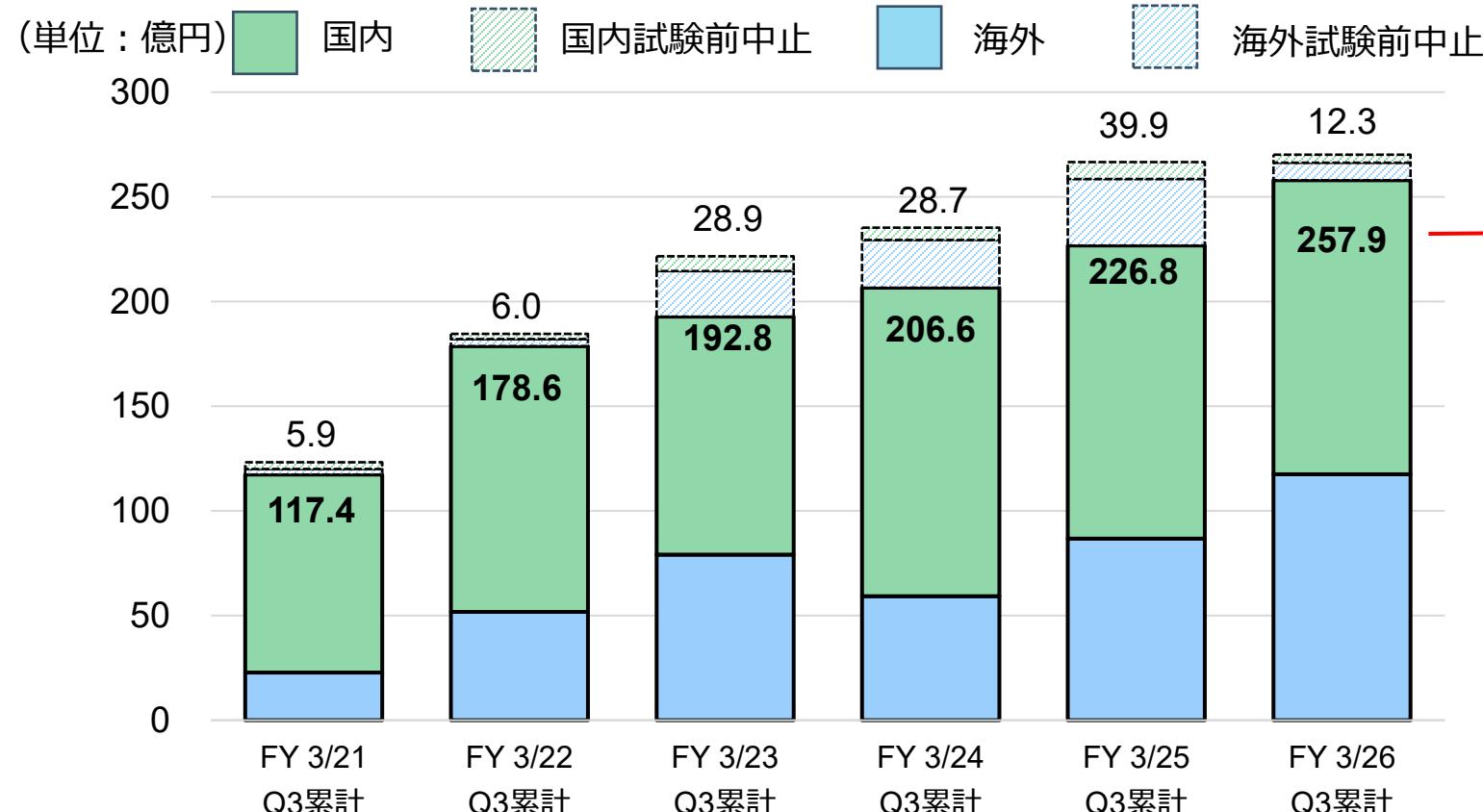
①CRO事業（非臨床）



専務取締役
欧米営業統括部長
角崎 英志

CRO事業：2026年3月期 第3四半期 非臨床 受注状況（円ベース）

S^{NBL}



前期Q3比 +31.1億円

換算レート(期中平均)
 Q1: 143.72円/\$
 Q2: 148.35円/\$
 Q3: 155.75円/\$

注) FY 3/23 Q2からイナリサーチ
 センターを含む

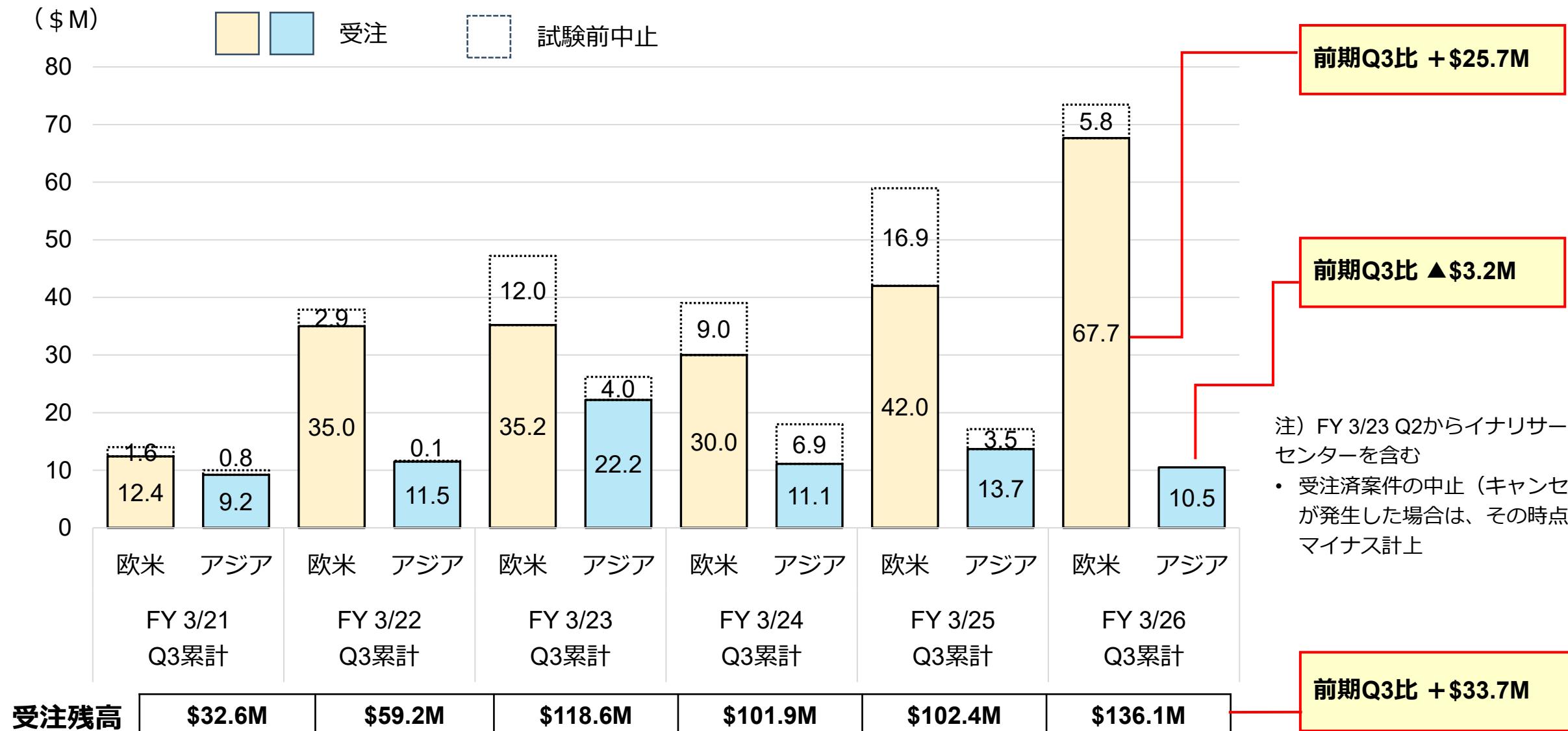
- ・海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定

受注残高
 海外受注残高比率
 海外受注高比率

	138.0億円	199.5億円	325.9億円	338.6億円	355.7億円	415.6億円
海外受注残高比率	24.5%	34.1%	48.3%	42.7%	46.3%	51.3%
海外受注高比率	19.4%	29.0%	41.0%	28.7%	38.3%	45.5%

前期Q3比 +59.9億円

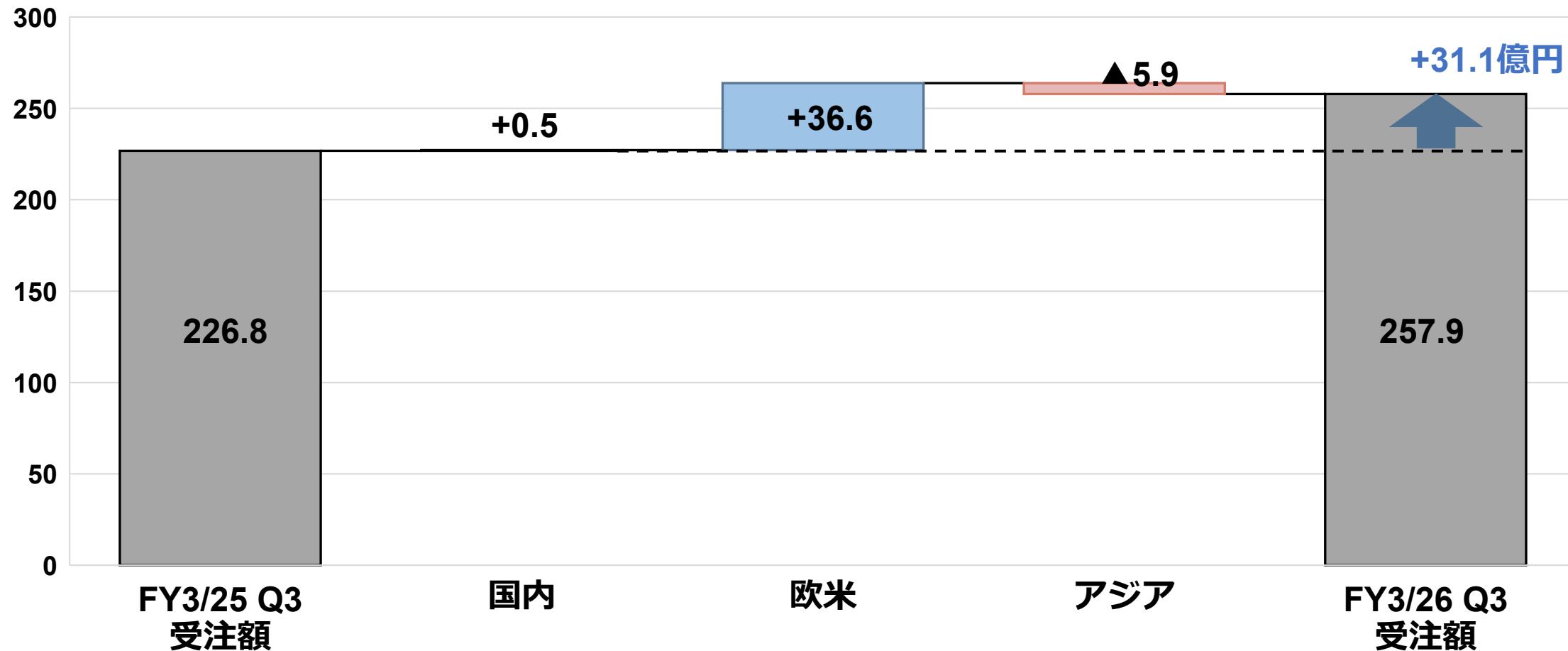
CRO事業：2026年3月期第3四半期 非臨床 海外からの受注状況 (US\$ベース)



CRO事業：2026年3月期 第3四半期 前期比受注要因分析

S^{NBL}

(単位：億円)

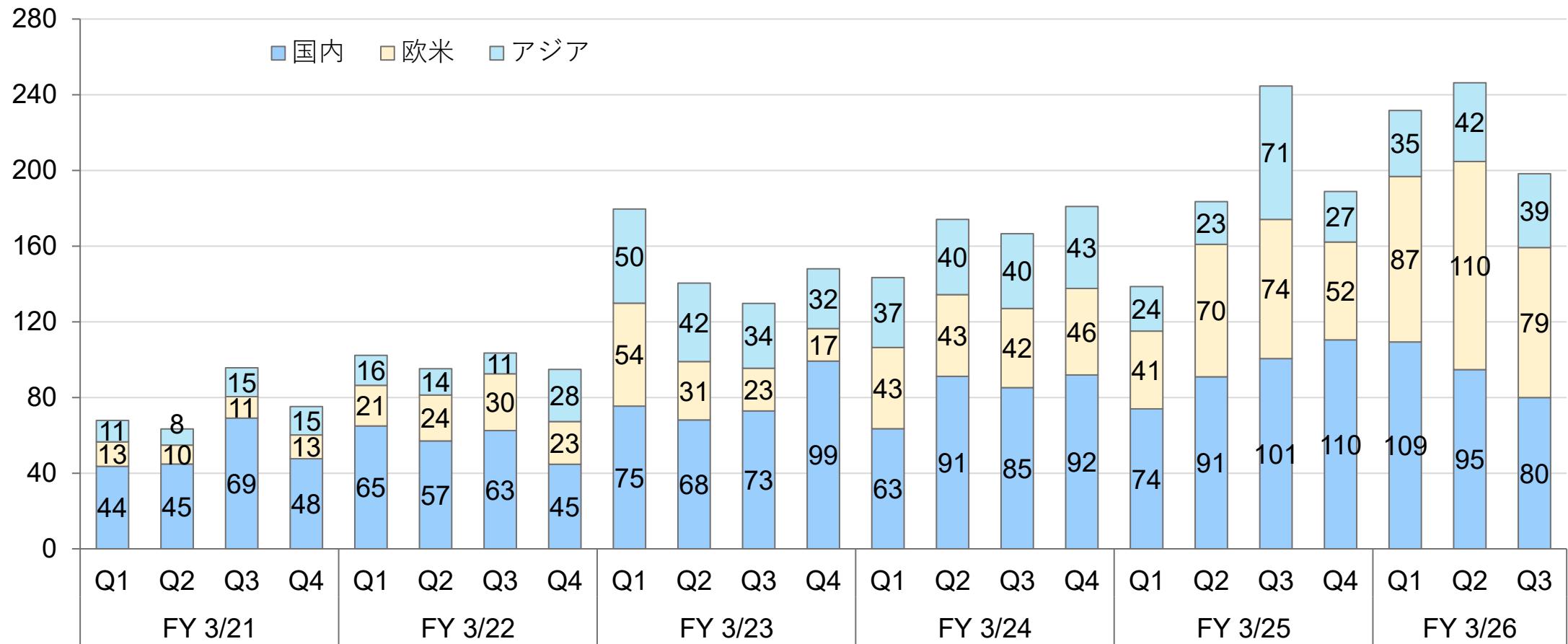


受注額：FY3/25 Q3: 226.8億円 → FY3/26 Q3: 257.9億円

CRO事業：見積提出金額の推移

S^{NBL}

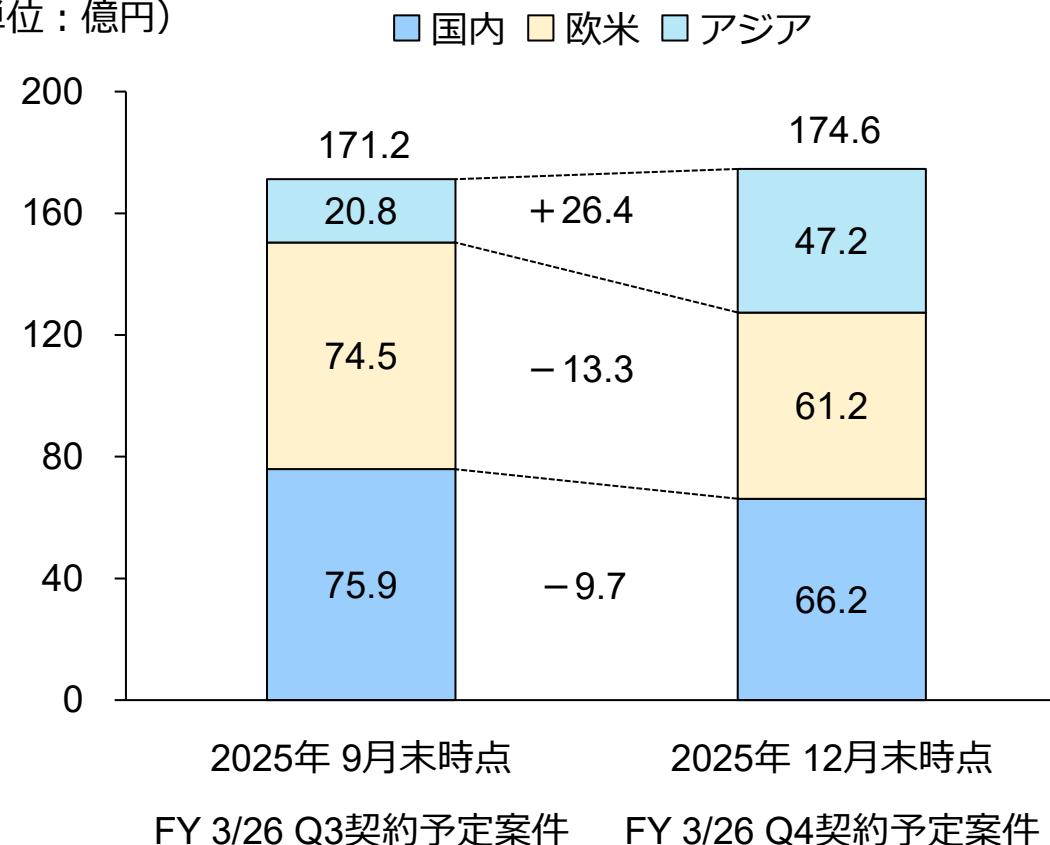
(単位：億円)



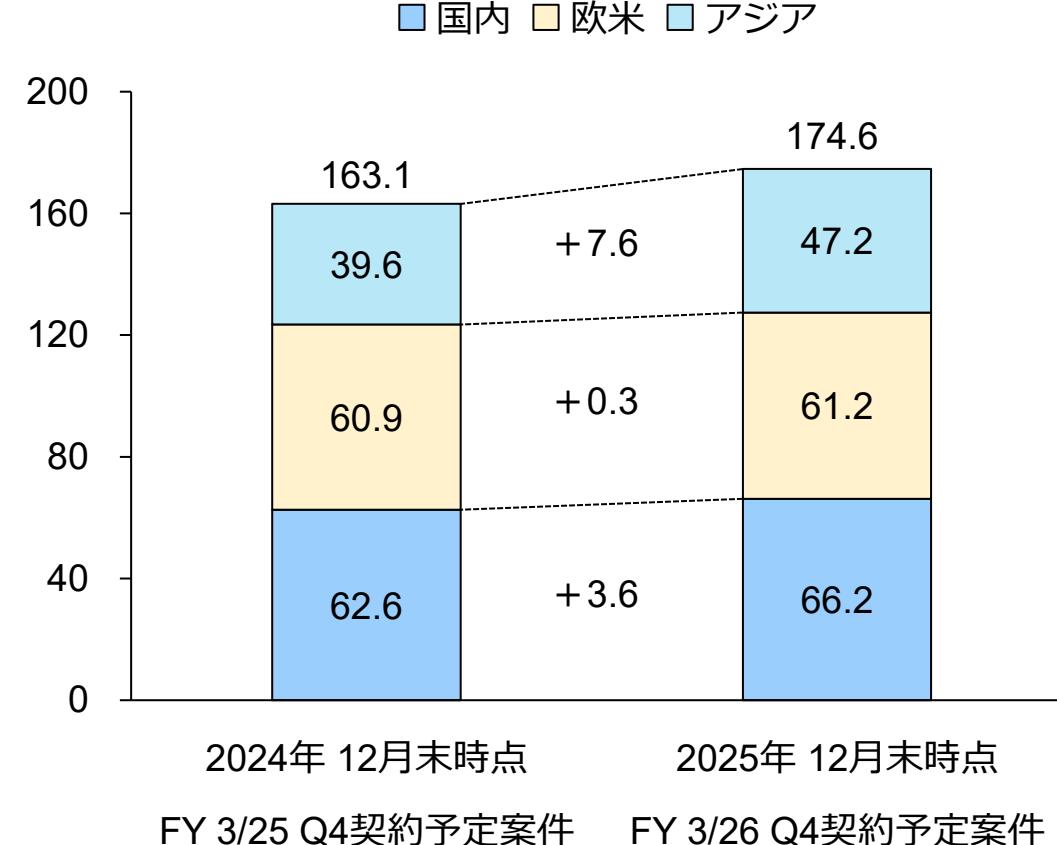
※ 海外の見積提出金額は円換算レートを各期の期中平均レートで算定

CRO事業：2026年3月期 第3四半期 問合せ状況

(単位：億円)



(単位：億円)



※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定

国内

- ・ 国内受注額は前期Q3累計と比較して0.5億円増加した。
今期H1は前期と比較して、当社のリピーターである複数の国内大手製薬企業からの受注額が減少していたが、Q3内には、当該顧客から順調に受注が成立し、Q3累計は前期並みとなった。
- ・ 国内大手製薬企業1社とプリファード契約締結が内定した。
これにより4社の国内大手製薬企業とプリファード契約が実現する。
- ・ 日本薬物動態学会にてランチョンセミナー・企業展示を実施した。
日本実験動物技術者協会、日本毒性病理学会教育セミナー、日本臨床化学会、G-SEND秋勉強会で学術発表を行った。

海外

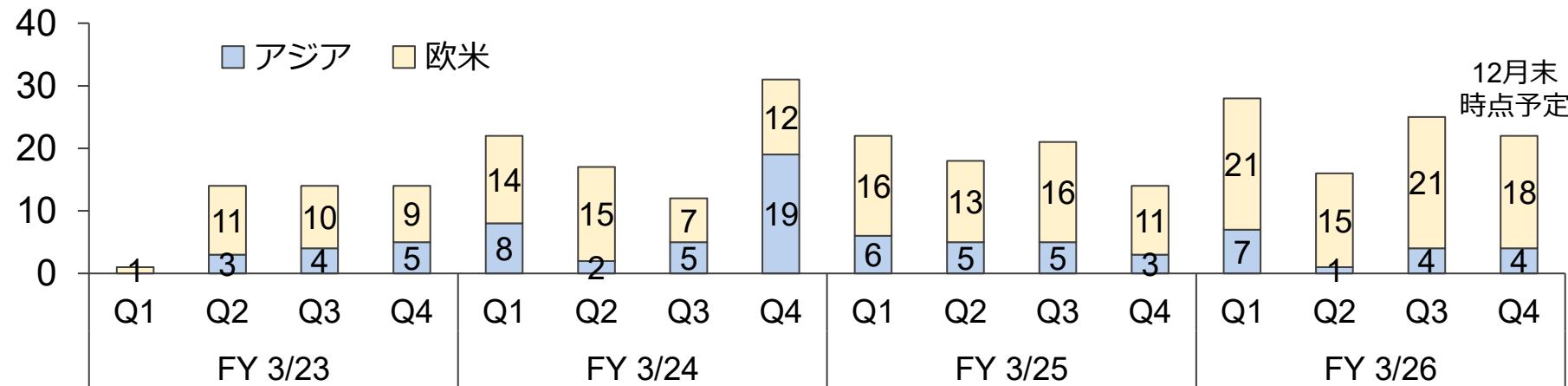
アジア

- ・ アジア受注額は前期Q3累計と比較して5.9億円減少した。
今期H1は前期と比較して、当社のリピーターである複数の韓国大手製薬企業の受注額が減少していたが、Q3単四半期ベースでは、期初予算を超える受注が成立した。

欧米

- ・ 欧米受注額は前期Q3累計と比較して36.6億円増加した。
- ・ 当社が強みとしている、NHP試験の受託を中心に伸長している。
- ・ 2026年3月期Q3累計は顧客サイトへの訪問、顧客の来日、学会などで180回の直接面談を実施。
- ・ Neuroscience、ACTで発表（ポスター5演題）。

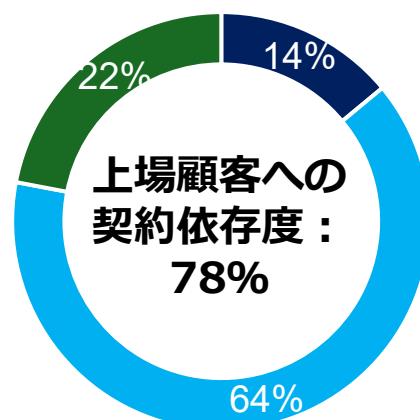
海外顧客の訪問件数推移



欧米の顧客層

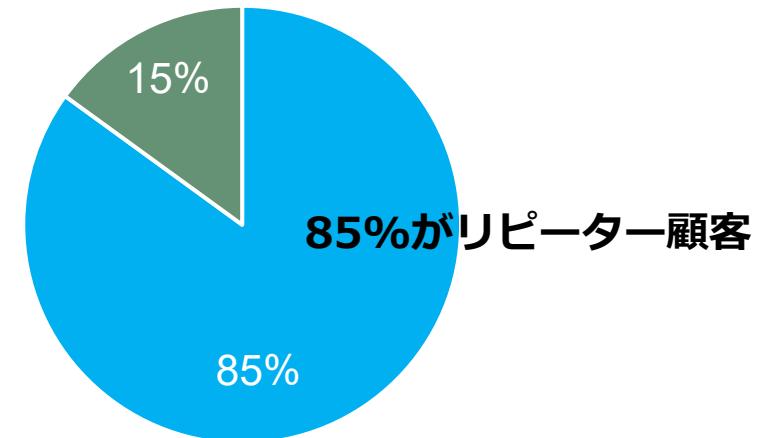
- 複数の開発パイプラインを有する上場バイオテックを中心であり、安定した継続受注が期待される。世界売上高25位以内の企業15社と契約ないしは具体的問い合わせがある。
- 85%がリピーター顧客で構成されており、当社のサービス品質に対して満足度が高いことが伺える。
- リピーターおよび新規顧客の増加により、受注の先行指標である問い合わせ・見積もり提出件数・総額は、過去最高水準で推移している。

欧米顧客セグメント情報（受注高）



- グローバルメガファーマ
- 上場バイオテック
- 非上場バイオテック・スタートアップ

リピーター顧客の割合（受注高）



- リピーター顧客
- 新規顧客

これまでの活動

- MPSの実用化・社会実装の推進を目指すAMED-MPS2事業に継続して参画している。
- 2025年4月に国内CROとして初めての受託サービスを開始した。
- Q2に2試験受託した。
- 国内・海外の製薬企業からの関心は継続して高く、複数の問合せがある。
- 日本毒性学会学術年会、Consortium for Safety Assessment using Human iPS Cells (CSAHi) -MPSウェビナー、iPark MPS Day 2025において、CROとしてMPSに関する取り組みや今後の方針を講演した。

今後の活動

- 動物実験との組み合わせによりヒトへの外挿性向上を目的とし、動物実験を補完する受託試験サービスを展開する。
- 既存臓器モデルの validation/qualification を取得してゆく（例：肝臓等）。
- 引き続き顧客ニーズの高い臓器モデルについて、受託試験サービスメニュー拡充する。

3. 事業トピックス

②CRO事業（臨床）

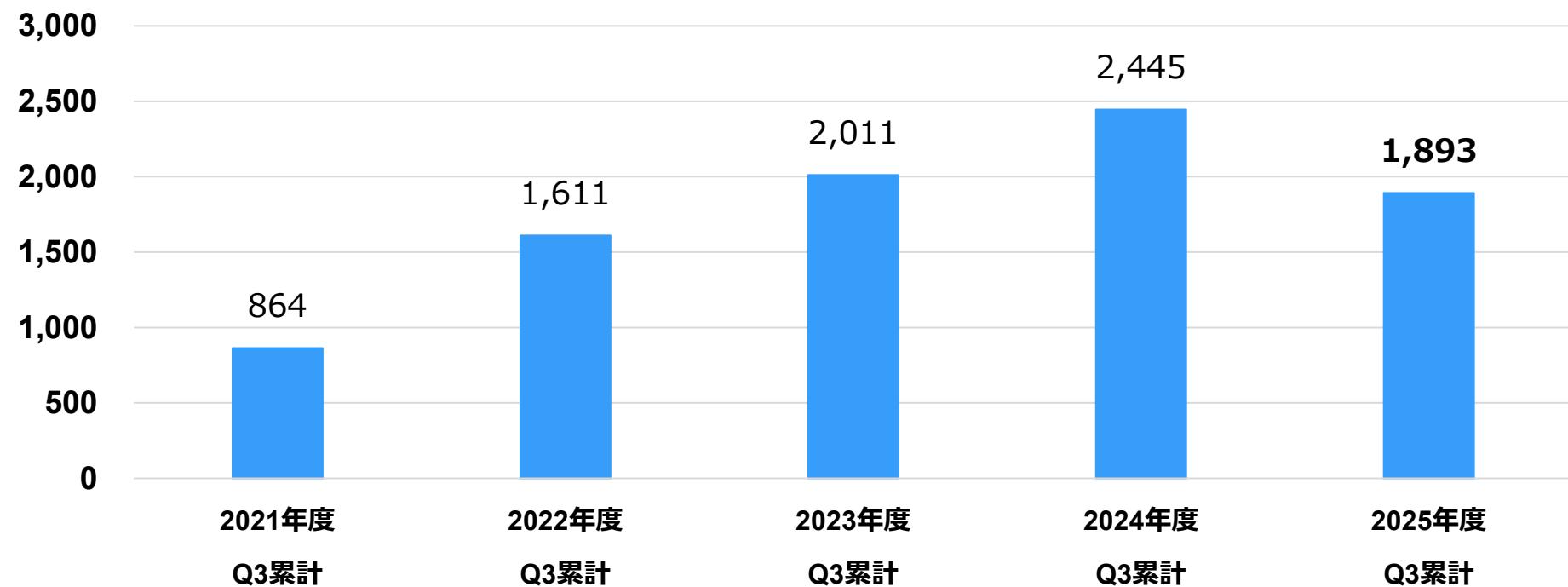


代表取締役副社長 COO
新日本科学PPD 代表取締役社長
永田 一郎

- 新日本科学PPDからのQ3累計期間の「持分法による投資利益」は1,893百万円。
(※新日本科学PPDは12月決算のため、当社のQ3累計＝1月～9月実績)
- 2025年12月末の従業員数は1,046人。

(単位：百万円)

新日本科学PPDからの持分法による投資利益



12月末時点の従業員数

760人	835人	945人	1,063人	1,046人
------	------	------	--------	--------

3. 事業トピックス ③TR事業／SGG事業



取締役副会長
高梨 健

Atzumi™の製品価値(将来的な利益)の最大化を目指し、パートナリング交渉を継続している。

交渉先とは、販売戦略やタームシートの内容に関する協議を継続中



■ 交渉遅延の外部要因

1. 米国バイオテック市場の二極化

- 米国のバイオベンチャー投資は、2021年以降減少トレンドであり2025年の投資件数も低調だった。大手企業は年間売上10億ドル以上が見込める大規模な案件を追い求める一方、中小規模の企業は投資余力が縮小傾向にある。

2. 市販DHE製剤のイメージ払拭の必要性

- 数年前に米国で販売されたDHE点鼻液剤の売上が低迷している。
- DHE点鼻粉末剤であるAtzumi™は、市販DHE点鼻液剤に比べ、速やかで高い血中濃度を達成し、携帯性と使い勝手に優れているにも関わらず、同じDHE経鼻製剤という理由でライセンス活動の障壁になっていると当社は考えている。

Atzumi™は、速やかで高い血中濃度を達成し、携帯性と使い勝手に優れており、既存DHE製剤の中で、Atzumi™の製品優位性は未だに高い。

優れた携帯性



簡便操作

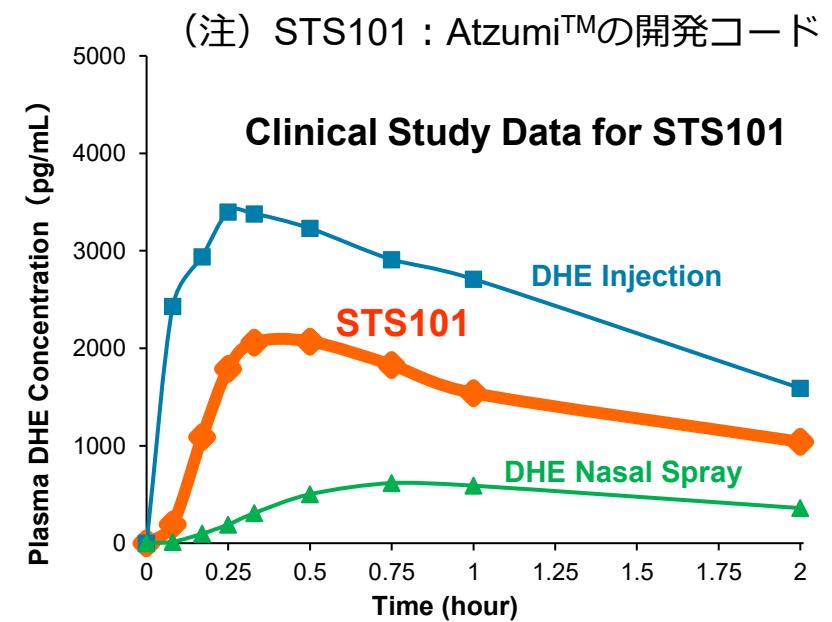
1 Fold off Tab

2 Insert in One Nostril

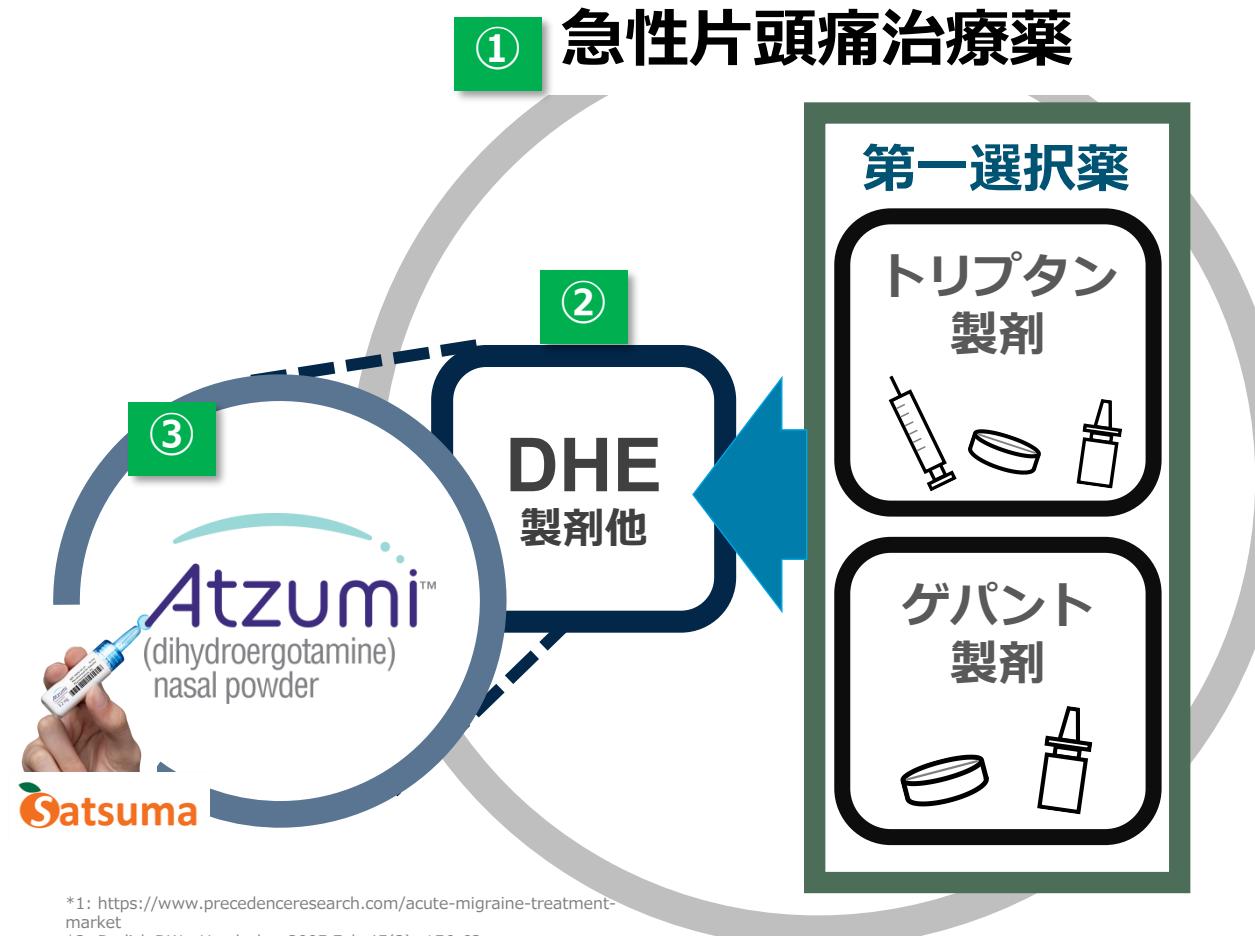
3 Squeeze to Deliver



速やかで高い血中濃度を維持



急性片頭痛市場は拡大を続けており、DHE製剤の処方上の位置づけを含め、Atzumi™が既存DHE製品内で優位な特徴を有する状況に変わりはない。



① 急性片頭痛治療薬の世界市場は、2025年は\$3.8B（約5,900億円）と見積もられており、2034年には\$10.0Bに到達すると予測されている。¹

② DHE製剤は、現状においても、第一選択薬（トリプタン製剤やゲパント製剤）が無効な患者に処方される。^{2, 3}

③ DHEの潜在ニーズは未だに大きいものの、臨床現場の観点からは既存DHE製剤は、使い勝手や吸収性の問題等で処方され難い状況にあるが、Atzumi™は、速やかで高い血中濃度を達成し、携帯性と使い勝手に優れているため、潜在ニーズに応え得ると確信する。

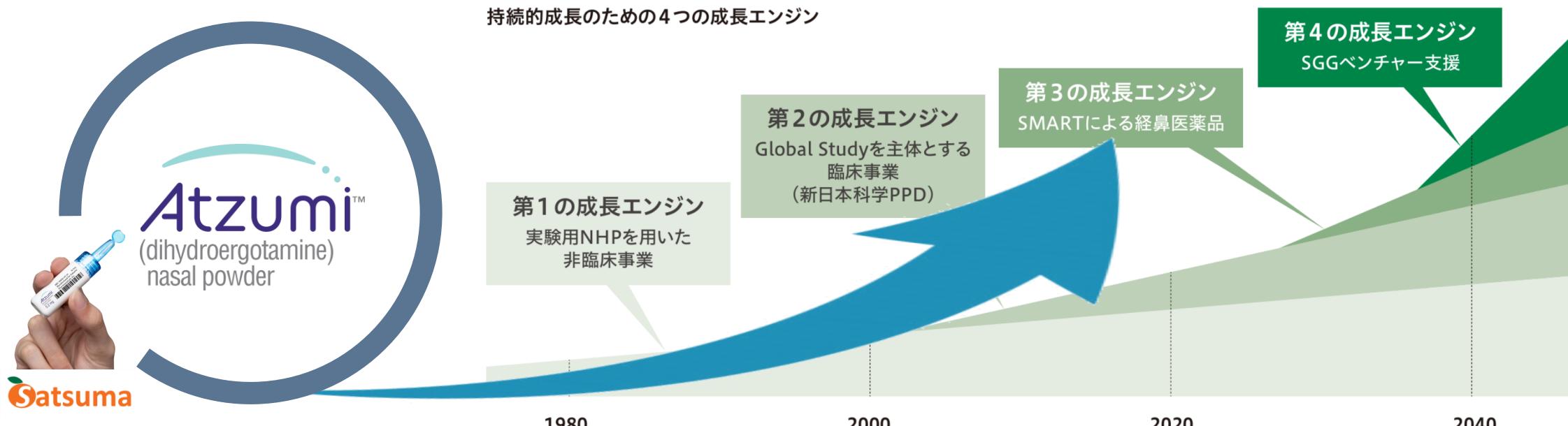
米国の片頭痛専門医100名に対する独自調査において、専門医が受け持つ片頭痛患者の30%程にSTS101 (Atzumi™) を処方したいとの調査結果を得ている。臨床の現場での高い評価を得ている。

*1: <https://www.precedenceresearch.com/acute-migraine-treatment-market>

*2: Dodick DW., Headache. 2005 Feb;45(2): 156-62.

*3: Deen M et al., The journal of Headache and Pain. 2017. 18:98,

Atzumi™の商業化を実現させる事で、当社第3の成長エンジンの始動を目指す。



(注) SMART : 当社独自開発の経鼻投与基盤技術 (Simple MucoAdhesive Release Technology)



立体制御合成プラットフォーム技術を用い遺伝性疾患薬を開発する核酸医薬ベンチャー

設立/経緯

2008/9年 当社がHarvard大/東大教授等と日本・米国に子会社設立

2012年 両社を統合後スピンアウト

2015年 Nasdaq上場

2016年 Pfizerと戦略的共同開発契約

2018年 Takedaと戦略的共同開発契約

2022年 GSKと戦略的共同開発契約

(当社株式保有比率) 5.1%

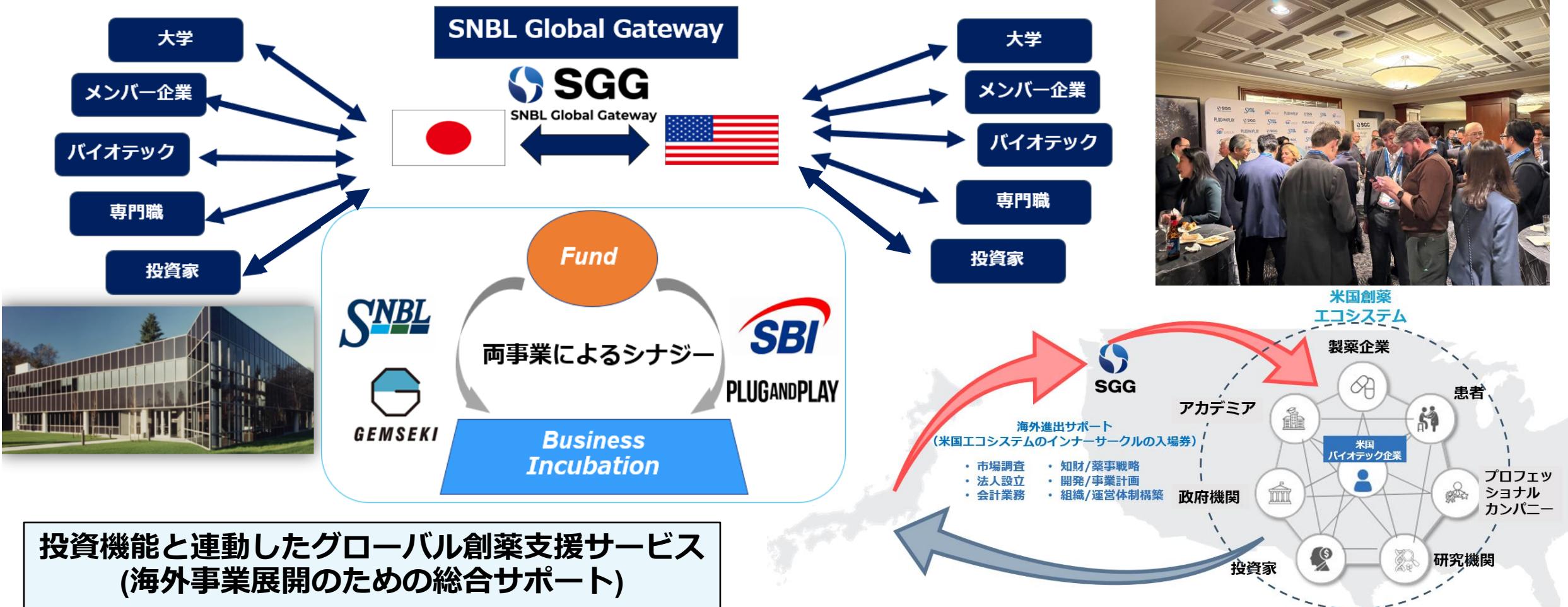
昨年12月、肥満症プログラム(WVE-007/INHBE)の臨床P1試験に関するポジティブな初期データを公表。
同時に\$402Mの資金調達を行い2028年3Qまでの開発資金を確保。

Program	Discovery	IND / CTA Enabling Studies	Clinical	Rights	Patient population (US & Europe)
RNAi					
WVE-007 (GalNAc) INHBE (obesity)				100% global	175M (>1 billion globally)
GalNAc / extra-hepatic Multiple				100% global	--
RNA EDITING					
WVE-006 (GalNAc) SERPINA1 (AATD)				100% global	200K
WVE-008 (GalNAc) PNPLA3 (liver disease)				100% global	9M
GalNAc / extra-hepatic Multiple				100% global	--
SPLICING					
WVE-N531 Exon 53 (DMD)				100% global	2.3K
Other exons (DMD)				100% global	Up to 18K
ALLEL-SELECTIVE SILENCING					
WVE-003 mHTT (HD)				100% global	25K Symptomatic (SNP3) 60K Pre-Symptomatic (SNP3)

SGG事業：グローバル創薬支援サービス



グローバル創薬エコシステム構築に向け、今年1月JPMヘルスケアコンファレンスにて開催された当社およびSBI・Plug & Play主催のレセプションに日米の業界関係者200名以上が参加。



株式会社新日本科学Tasso

(株式会社新日本科学とTasso Inc.の合弁企業)

事業内容：Tasso Inc.が開発した**Tasso Mini**
(自己採血デバイス) の販売 (国内独占販売権)

2024年5月 設立

2025年9月 医療機器(クラスⅡ)認証取得

2025年12月 販売開始

Tasso Inc.

本社：米国シアトル市

設立：2011年

事業内容：自己採血デバイスの開発/販売



Tasso Miniの特長

自己採血が出来る/自宅で採血が出来る/痛みが少ない
高品質 (溶血が少ない) /採血量が比較的多い (平均500μL)

※米国を中心にウェルネス (予防/セルフメディケーション)
や大規模臨床研究等すでに幅広く使用されている



1. 予防/セルフメディケーション

自身の健康状態をより詳細に把握し
疾患の予防や早期発見を可能にする

2. 遠隔医療/災害医療

医療サービスが届きにくいエリアでも
質の高い医療サービス提供体制を構築/維持

3. 小児医療

患児/ご家族の苦痛軽減
医療従事者の肉体的/精神的負担軽減

4. 臨床試験

スクリーニング検査・DCTなど

5. アンチドーピング

オリンピック・MLB等でも採用

※現在、複数の大学/研究機関/製薬企業と様々な活用を
想定した臨床研究を準備中

4. Q&A



業績データ一覧

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
売上高	15,110	17,748	25,090	26,450	32,413	30,698
前年比	3.8%	17.5%	41.4%	5.4%	22.5%	-5.2%
売上総利益	7,554	9,687	13,046	14,282	16,960	16,627
売上総利益率	50.0%	54.6%	52.0%	54.0%	52.3%	54.2%
営業利益	2,529	4,195	5,245	4,162	2,985	2,600
前年比	13.5%	65.9%	25.0%	-20.6%	-28.3%	-12.8%
持分法による投資利益	846	1,439	2,489	2,751	3,513	2,599
経常利益	3,645	7,078	9,194	7,015	6,450	5,353
税引前当期純利益	4,175	8,183	7,759	6,974	6,013	4,887
法人税等	497	1,016	1,708	1,456	1,148	1,327
親会社株主に帰属する当期純利益	3,661	7,127	6,060	5,531	4,924	3,561
1株当たり当期純利益 (円)	87.95	171.20	145.56	132.86	118.29	85.53
海外売上高	2,100	3,091	6,575	8,637	10,889	--
海外売上高比率	13.9%	17.4%	26.2%	32.7%	33.6%	--
株主資本	15,840	22,181	25,751	29,252	32,124	--
純資産額	15,838	19,723	26,359	34,160	40,085	--
総資産額	36,972	39,312	57,242	76,302	92,416	--
有利子負債	12,864	9,281	18,931	26,331	34,347	--
自己資本比率	42.6%	49.8%	45.8%	44.7%	43.3%	--
設備投資額	1,025	1,703	5,614	8,525	11,390	6,191
減価償却費	1,187	1,177	1,544	1,774	2,496	3,098
研究開発費	392	425	683	1,741	2,217	2,770
売上高R&D比率	2.59%	2.39%	2.72%	6.58%	6.84%	9.02%
期末従業員数 (人)	986	994	1,208	1,341	1,436	1,532
自己資本当期純利益率 (ROE)	22.9%	40.4%	26.5%	18.3%	13.3%	--
総資産経常利益率 (ROA)	9.6%	18.6%	19.0%	10.5%	7.6%	--
投下資本利益率 (ROIC)	12.3%	18.4%	17.9%	10.3%	10.4%	--
売上高営業利益率	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%	9.2%	8.5%
売上高経常利益率	24.1%	39.9%	36.6%	26.5%	19.9%	17.4%
1株当たり配当額 (円)	20.0	40.0	50.0	50.0	50.0	50.0
配当性向	22.7%	23.4%	34.3%	37.6%	42.3%	58.5%

1. 業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々なリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
2. 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
3. この資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝 広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
4. 当資料は「2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に準拠し作成しています。また、差額、比率については億円単位未満は切捨てで記載しております。

〈IRに関するお問い合わせ〉

株式会社新日本科学
IR広報統括部

電話：03-5565-6216
E-mail：ir@snbl.com
HP：<https://snbl.com/>